

ゲノム編集技術に関する研究及び特許の動向と今後の方向性

日本大学法学部・大学院法学研究科 教授

加藤 浩

ゲノム編集技術は、生物の遺伝情報であるゲノムを書き換える技術であり、医療や食品などの分野を中心に、広く産業応用が期待されています。このため、社会的な関心が高く、2020年のノーベル化学賞が「ゲノム編集」を開発した研究者に授与されたことでも話題になりました。

ゲノム編集技術は、近年、積極的に研究開発が進められており、実用化も進展しています。例えば、医療分野においては、筋ジストロフィーやエイズ（後天性免疫不全症候群）に対して、ゲノム編集技術を利用する治療方法が検討されています。白血病などの各種がんの治療法としても、ゲノム編集技術への期待が高まっています。また、食品分野では、「GABAの多いトマト」、「肉厚なタイ」などについて、ゲノム編集食品として厚生労働省に申請されています。

このようなゲノム編集技術について研究開発や実用化を推進するためには、特許出願や登録特許の動向を把握することが必要不可欠です。すなわち、どのような研究成果が特許出願され、どのような権利範囲として特許登録されているのかについて調査・分析することが重要です。その結果、研究成果を事業活動に最大限に活かすことができます。

本発表では、このような視点から、ゲノム編集技術に関する研究及び特許の動向について説明し、今後の方向性について解説します。

【略 歴】

- 1988年3月 東京大学薬学部卒業
- 1990年3月 東京大学大学院薬学系研究科(修士課程)修了
- 1990年4月 経済産業省(特許庁)入庁(2009年3月まで勤務)
- 1994年4月 特許審査官に昇格
- 1997年～1998年 ハーバード大学メディカルスクール
- 2002年10月 特許審判官に昇格
- 2005年～2007年 政策研究大学院大学助教授(特許庁から出向)
- 2007年3月 慶応義塾大学法学部卒業(法学士の取得)
- 2008年3月 東北大学工学研究科(博士後期課程)修了(博士号の取得)
- 2009年4月 日本大学法学部・大学院法学研究科教授(現在に至る)
- 2009年6月 弁理士登録(青山特許事務所)
- 2017年4月 日本大学国際知的財産研究所を兼務(研究所長)
- 2019年4月 日本大学本部産官学連携知財センターを兼務(副センター長)